

## 2. コロンビアにおける日本人移民の話—その2

天理教コロンビア出張所長  
清水 直太郎 Naotaro Shimizu

前回(第6回)は、日本とコロンビア双方の政府が関与しているコロンビア南部地方(カウカ県及びバージェ・デル・カウカ県)へ移住した日本人移民の説明であった。最初に入植したカウカ県のコリント・ハグアル地区から、現在、日系人はバージェ・デル・カウカ県のバルミラ、フロリダ、そしてコロンビア



写真1 コロンビア

バージェ・デル・カウカ県、カリ市  
出典: [https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/2/24/Colombia\\_-\\_Valle\\_del\\_Cauca\\_-\\_Santiago\\_de\\_Cali.svg/1137px-Colombia\\_-\\_Valle\\_del\\_Cauca\\_-\\_Santiago\\_de\\_Cali.svg.png](https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/2/24/Colombia_-_Valle_del_Cauca_-_Santiago_de_Cali.svg/1137px-Colombia_-_Valle_del_Cauca_-_Santiago_de_Cali.svg.png)

第三の都市カリ市に定住している。  
約25年前(1994年頃)コロンビアには、もう一つの日系人社会が存在する、ということを知った。その時の情報は、1) 南部の日本人移民より歴史が古い、2) 日系人会があって、その会長が元プロサッカー選手であり、コロンビアで初めての日系人選手であったこと程度であった。「ネット情報」も無かったため、私は無性に調査したくなり、自ら現地へ赴いた。調査方法は、日本人移民へのインタビュー形式による。以下は、その「コロンビア北部の日本人移民」(バランキージャの日系人)の調査内容の要旨である。

### 2.2 コロンビア北部の日本移民

コロンビアの北部とは、カリブ海(大西洋)側の地域を指す。主要な都市は3都市、カルタヘナ、バランキージャ、そしてサント・マルタである。その中で、日本人移民の舞台となるのが



写真2 コロンビア

アトランティコ県のバランキージャ市  
出典: [https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/f/f0/Colombia\\_-\\_Atlántico\\_-\\_Barranquilla.svg/1920px-Colombia\\_-\\_Atlántico\\_-\\_Barranquilla.svg.png](https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/f/f0/Colombia_-_Atlántico_-_Barranquilla.svg/1920px-Colombia_-_Atlántico_-_Barranquilla.svg.png)

バランキージャである。バランキージャはアトランティコ県の県庁所在地で、人口170~180万人、コロンビアの第四の都市である。  
このバランキージャへ日本人の移住は、計画されたものではなく、またまとまったグループが住み着いた、というのではない、きわめて偶然なケースである。しかしながら、移民のいくつかのケースの中で、このバランキージャの場合は日本人移住の一つの「形」と考えられ、日本人が「現地に同化」という要素がかなり濃くでているケースである。また、コロンビア南部移民の時代よりも、10~15年ほど以前からの歴史であることを考慮に入れる必要がある。

### \*日本人が入植した経緯<sup>(1)</sup>

「水野」という苗字を名乗る一人のペルー移民の日本人がパナマを旅していた。当時ペルーに蔓延していたコレラから逃れるため、一時疎開するという目的があったからである。しかしながら、水野氏はすでにコレラの保菌者であり、パナマで発症した。水野氏は「コロンビアのアトランティコ県付近に病気に効く薬用水がある」ことを聞いていたので、1915年その水を求めて、プエルト・コロンビア港に到着した。事実、ウシアクリという先住民の村が存在していて、そこには療養施設が設けられるほど、「薬用水」で当時は知られていた。水野氏もそこで療養して次第に健康になった。水野氏は、健康が回復したらパナマに戻ろうと考えていた。けれどもその村、ウシアクリの環境が気に入り、結局ここに定住し、そこで一人のコロンビア人女性と結婚した。

それより前の話だが、水野氏がパナマに滞在していた時、彼は理容師として生計を立てていた。彼は、彼の生まれ故郷にいる2人の友人に「パナマに来ないか、理容師で成功する」という手紙を送った。その友人というのは道工氏と安達氏だった。彼ら2人は水野氏の言葉を信じ、日本からパナマに渡った。しかし、彼らがパナマに到着した時にはすでに水野氏はコロンビアのウシアクリに行った後だった。そこで、2人は少しの間パナマで暮らし、その後、水野氏を探しにウシアクリに移った。この3人がコロンビア北部の日本人移民の最初である。このウシアクリの「薬用水」の話は有名になり、パナマやペルー、キューバに移住している日本人たちが次第にその水を求めて来るようになった。

その結果、バランキージャとウシアクリに13人の日本人が来て、結婚して家庭を築くようになった。1927年までにウシアクリにいた数家族はバランキージャに引っ越して、1930年までには少なくとも13人の日本人及びその配偶者や家族がいたことになる。コロンビア南部の日系人到着が1929年11月と比較しても10年以上も早い入植になる。

### \*コロンビア北部日系人の特徴

コロンビア南部の日本人移民と異なるのは、バランキージャへ移住した日本人はほとんど独身男性だった。そしてすべての男性日本人はコロンビア人女性と結婚した。さらに、彼らはコロンビア日本大使館はもとより、コロンビア政府とも何ら関係を持たなかった。彼らは南部日系人のように政府からの援助や計画は無く、自分たちの生活、人生は自分たちで支え、築き上げた。彼らは、日本人ならではの「器用さ」を発揮したのである。それは、写真技師、食料品販売、そして前述のように理容師などであった。

コロンビア南部移民のように、農業日本人会(SAJA:一種の協同組合)も設立されなかったバランキージャの日系人だが、彼らは毎月会合し、日本人という自覚に基づいた友情を育てた。そのため、バランキージャの初期の移民は国籍を変えなかったのである。

[註]

(1) 清水直太郎 1994年7月 Sondeo クラスの期末レポートより; 回答者: 道工薫